

シベリア先住民諸語の記述的・類型論的研究

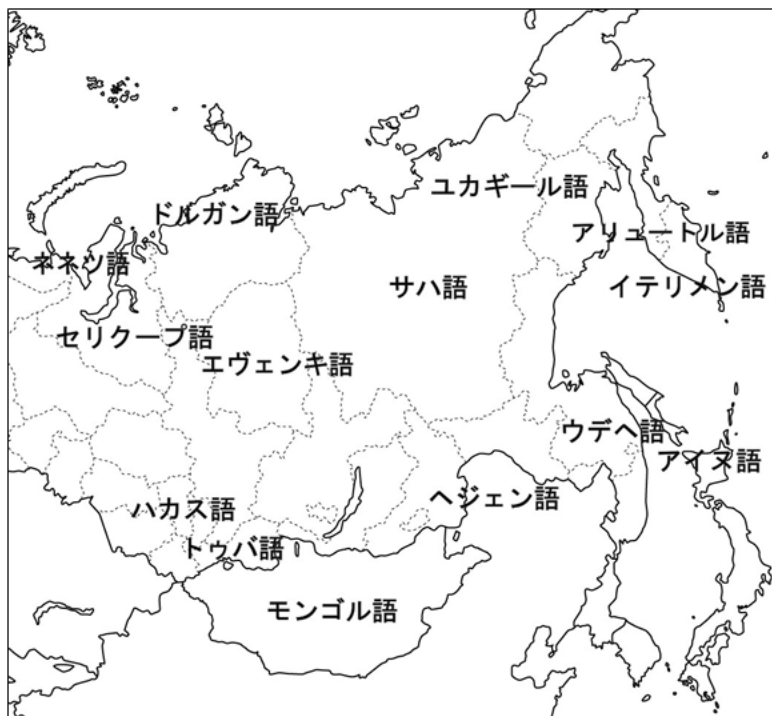
(令和5年度・活動実績報告)

■ プロジェクトの研究目的

日本の真北にあたるシベリア地域では、歴史的系統や類型の特徴が大きく異なる多数の言語が話されています。その多くは、話し手の数が極めて少ない少数言語・危機言語です。これら小さな言語も、研究対象としては英語や中国語などの大言語と等しい価値を持っています。どの言語も独自の緻密な構造を備えており、さらには祖先の言語の状態を知るための手掛りを内包しているからです。

本研究プロジェクトは文献資料の乏しいシベリア先住民諸語を研究対象とし、歴史的変遷と言語類型論的特異性に焦点をあてます。シベリア地域における系統関係の異なる言語同士が相互接触を繰り返して現在の姿に至るまでの歴史的過程を解明し、国家語の影響や標準語成立による平準化の前の段階では現在よりも言語類型論的に際立った特異性を示す、という仮説を検証します。

本研究プロジェクトは、科学研究費（基盤研究A）「シベリア先住民諸語の総合的研究：文献以前の歴史的空白の解明と言語類型論への展開」（研究代表者：江畑冬生）と連携しています。



〔地図〕 研究対象とするシベリア先住民諸語の分布図

■ 令和5年度の主な学会発表と論文

Non-plural use of the Turkic plural suffixes: associative, approximation, and coordination. “The 16th Seoul International Altaistic Conference” Seoul National University, Korea. (2023年7月)

How should converbs be defined? From case studies of Sakha (Yakut) and Tyvan converbs. “5th International Symposium on Northern Languages and Cultures” Nazarbayev University, Kazakhstan. (2023年8月)

「チュルク語複数接辞の非複数用法：連合・近似・等位接続」 児倉 徳和・佐藤 久美子（編）『チュルク語文法の諸相2：情報構造・知識管理』東京外国語大学AA研. 1-18.

■ 令和5年度のその他の研究成果・アウトリーチ活動

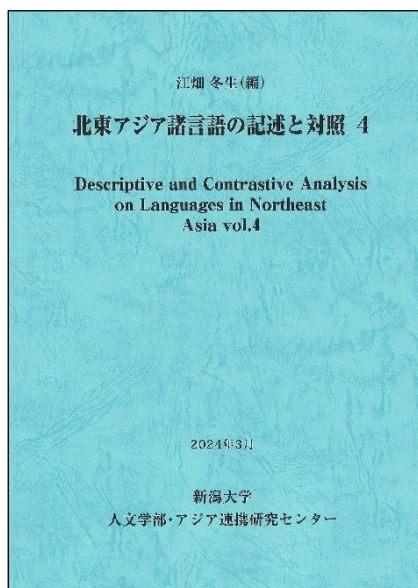
科学研究費主催による研究会「シベリア先住民諸語の歴史と類型3」（2023年5月）

日本北方言語学会第7回研究大会の共催（2023年11月）

湘潭大学外国語学部における講演「日本語の実例から考える言語学の基本的概念」（2024年1月）

■ 令和5年度の出版物

『北東アジア諸言語の記述と対照4』（2024年3月）



■ 令和6年度の主な活動計画

『語学研究所論集調査票による例文集（トゥバ語）』刊行（2025年3月）

『北東アジア諸言語の記述と対照5』刊行（2025年3月）

江畑 冬生（人文学部・教授）